

平成30年度入学試験問題（前期日程）

実 技 検 査

教育学部 学校教育教員養成課程
中学校教育コース 教科教育専攻
美術教育専修

注 意 事 項

1. 解答時間は、240分である。
2. 試験開始の合図があるまで問題を見てはいけない。
3. 与えられた材料・用具以外は使用してはならない。

問 題

問 1 与えられた材料で紙筒を3本作り、身の回りの空間の中に設置して、描きなさい。

問 2 制作意図（設置、構図のねらい等）を簡潔に述べなさい。

注 意 事 項

1. 制作は地図で指定された範囲内の任意の場所で行ってよい。
2. 描画用紙の縦横は自由とする。
3. 鉛筆で描写し、透明水彩絵具で着彩を加えること。
4. 制作意図は、試験終了10分前に配布する解答用紙に記述すること。

平成30年度入学試験問題（前期日程）

実 技 検 査

教育学部 学校教育教員養成課程

中学校教育コース 教科教育専攻

美術教育専修

出 題 の 意 図

教育学部のアドミッションポリシーでは、求める人材の要件として、「思考力」「判断力」「表現力」の重要性を掲げている。これに対応して、本専修の実技検査では、実技作品の中に表現された受験者の「発想力及び造形力」を評価している。

本問は与えられたモチーフによる空間構成と鉛筆淡彩での描写をとおして、受験者の「発想力及び造形力」の基となる「デッサン（素描）力」を問うものである。受験者に与えられるのは「3つの円筒形」という実に単純なモチーフである。しかし、それぞれの円筒の口径と高さ（長さ）の関係をどう作るか、どんな場所に、どのような位置関係で設置するか、そして、それらをどこからどんな角度で見るか、筒と筒の「間」に何が見え何が見えなくなるのか、さらに、それをどのような構図に表現するかなど、制作過程の中で、無限の「関係」を創り出して行くことが可能である。本問で問われているのは、まさにこの「関係」を把握し創り出す力であり、対象となる個々の事物を再現・描写するだけでなく、空間の中におけるそれらの「関係」を描き出す力としての「デッサン力」である。

単純なモチーフ、そして鉛筆淡彩と言うミニマルでシンプルな素材・方法で、いかに豊かな「関係」を表現することができるか。作品を通して受験者の「デッサン力」を問い、さらに「制作意図」として自らの制作を省察させることで、受験者の「思考力」「判断力」も含め、総合的にその「発想力および造形力」を評価するのが、本問の出題意図である。